

1 研究主題

自ら考え、ともに学びを深める力の育成を目指して

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

予測困難な時代であっても、社会の変化に主体的に関わり、多様な他者と協働しながら課題を解決したり、新たな価値を創造したりして、よりよい社会と幸福な人生を創っていく姿が、私たち指導者の求める「子どもの姿」である。そこで学校教育目標を「心豊かで、たくましく生きる子の育成」と掲げた。学校教育目標の実現に向け、新しい時代に生きる子どもたちが課題に突き当たったときに、これまでに培った力をいかし、他者と協働しながら課題を乗り越える中で、解決につながる新たな考えやよりよい考えを、自ら生み出そうとする力を育成しなければならないと考える。

(2) これまでの研究の経過から

昨年度は、「より適切な表現で説明できる力」を身に付ける授業作りを研究の柱とした。

前期は、適切な表現につなげるために、児童の曖昧な表現や不足している表現に対しての発問や、誤答提示による理解を深めるための発問を精査する授業づくりを行った。その結果、教師の発問に関する意識を高め、児童の意欲や理解につながった。中期では、発問を工夫することに加え、対話的な学びを目指す学びの形態を工夫し、根拠・理由を明確にし、関連付けた表現ができるようにする授業づくりを目指した。意識して話し合いの場を提供することで、わからないということを素直にわからないと伝えて解き方を教えてもらう姿が見られた。また、自分の考えをアウトプットする機会が増え、確実な理解につながった。後期は、これまでの結果をふまえ、どのような方法で課題解決を行うのかを児童が自己決定する場を用意し、その上で話し合い活動に取り組むことにした。しかし、後期は震災があり、十分な取組ができなかった。一年間の研究を通して、友だちと学びを深めながら適切に表現することができるようになった児童が増えてきたが、まだ充分ではない。したがって、今後も「より適切な表現で説明する力」をつけていく必要がある。

(3) 今年度の取組

昨年度までの取組である「適切に表現する力」を高めることを基本とし、今年度は「友だちと考えを共有し、自分の考えを適切に表現することができる」授業づくりを行う。昨年度身に付けた力を土台とし、さらに児童同士で考えを交流し合い、対話を通して協働的に学び、自分の考えを深める力を付けさせたい。その際に、自分の表現がよりよいものなることを実感することが「わかった、できた、楽しい」につながっていくと考える。

教師の具体的取組として、交流する場（深めタイム）の設定、適切に表現するためのキーワード提示・共有、自分の考えを書く場の設定を共通実践していくこととする。

3 研究の内容

(1) めざす児童の姿

友だちと考えを共有し、自分の考えを適切に表現することができる子

(2) 研究仮説

小グループで考えを伝え合うことで、お互いの考えの相違点を見つけたり、友だちの考えを理解しようとしたり、自分の考えを見直したりする力を高める（学びを深める）ことができるだろう。その際に、必要な用語（キーワード）を使って、課題に対する適切な表現になっているかを児童同士で考えることにより、適切に表現する児童の育成につながるだろう。

(3) 研究方法の具体

【考えを伝え合う場の設定】

- ・ペアやグループで自分の考えを伝える場を授業の中に位置づける。
- ・深めワードを使って話し合う。

【キーワードの共有】

- ・必要な用語を黒板に提示し、表現に生かすことができるようにする。

【自分の考えを書く場の設定】

- ・自分の考えをもち、話し合いを通して適切な表現で書く活動を取り入れる。

【相手意識をもって話す・聞く指導】

- ・話し方・きき方あいうえおの「あ」である「相手を見て」を徹底する。
- ・相手の反応を求める話し方や、相手に反応しながらきくことができるようにする。

